

2021年3月31日

一般社団法人日本独文学会 2020年度事業報告書

一般社団法人日本独文学会は2020年度に次の事業を行った。

1. 春季（オンライン）及び秋季研究発表会（オンライン）の開催

- ・ 2020年6月6日、7日両日、東京大学本郷キャンパスにおいて開催予定だった一般社団法人日本独文学会第2回総会および春季研究発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため現地での開催を断念し、前者は6月6日10時から11時半までオンライン会議システム Zoom を用いて開催し、正会員234名（議決権行使書提出者155名を含む）の出席をえた、後者は6/22～28の間、査読に基づき承認された発表予定者のうち代替措置による発表希望のあった4名の口頭発表原稿を学会ホームページに非公開掲示し、会員が配布されたパスワードを使ってログインした上でそれらを閲覧し、質疑も同ホームページ上に文字でコメントを残して行うという Web 発表形式とした。活発な質疑応答および意見交換が行われた。また、ドイツ語教育部会総会、ドイツ語教育部会による「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示発表、第17回日本独文学会・DAAD 賞授賞式、第60回ドイツ語学文学振興会賞授賞式、書店・出版社による各種展示はすべて中止となった。
- ・ 2020年秋季研究発表会は10月17日および18日に富山大学で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大をうけて11月21日および22日両日、オンラインにおいて開催された。会員以外に非会員13名の参加者があった。研究発表会の内訳はシンポジウム6本、口頭発表9本であり、初の Zoom によるオンライン開催ということで事前の発表内容公表と当日の討論というハイブリッド形式で行われた。なお、今回はポスター発表およびブース発表は募集を中止した。また、口頭発表・シンポジウムと並行して、朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられた。

2. 機関誌『ドイツ文学』／„Neue Beiträge zur Germanistik“ の発行（年2冊、うち1冊は国際誌）

- ・ 160号（和欧混合誌）を2020年5月に発行した。特集「文芸公共圏」10篇、一般投稿の文学文化4篇、語学2篇、書評・新刊紹介10篇を掲載した。
- ・ 161号（欧文誌）を2021年3月に発行した。特集 „Yoko Tawada – Poetologie der Exophonie“ 9篇、一般投稿（文学文化1篇、教授法1篇、書評2篇）。
- ・ 162号（和欧混合誌）は編集作業をほぼ終えており、2021年4月に発行する予定である。特集「日本における『外国語としてのドイツ語（DaF）』－教育実践と教育研究の新たな方向性」9篇、一般投稿（文学文化4篇、教授法2篇、書評・新刊紹介7篇）。

3. 文化ゼミナール・語学ゼミナール・教授法ゼミナールの開催及びその記録論集の発行
 - ・ 第 62 回ドイツ文化ゼミナールは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となった。代わりに 2021 年 3 月 14 日～16 日に文化ゼミナールオンライン企画が開催された。講師は、Prof. Dr. Hans Richard Brittnacher (ベルリン自由大学)、ゼミナールのテーマは Die Phantastische Literatur, 参加者は 44 名であった。また 2017 年度および 2018 年度の論集 „Religiöse Erfahrung – Literarischer Habitus“ が Akten des JGG-Kulturseminars の第 1 号として 2020 年 12 月に J-Stage で公開された。この号は iudicium 社の希望により当社の費用で書籍としても刊行された。
 - ・ 2020 年の語学ゼミナールは、コロナ禍で招待講師の入国が叶わなくなったことに伴い、予定していた内容を直前に変更し、「語学ゼミナール・オンライン 2020」として遠隔会議方式で催した。例年のような総合テーマは掲げなかったものの、シュトゥットガルト大学 Daniel Hole 教授を基調講演者として招き、2020 年 8 月 31 日(月)～9 月 3 日(木) の 4 日間に開催した。参加者は 37 名であった。また、第 47 回語学ゼミナールの論集 „Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung“の第 3 号が 2021 年 3 月に J-Stage で公開された。
 - ・ 2021 年 3 月 10 日から 13 日まで、第 25 回教授法ゼミナールがオンラインで開催された。講師は Uwe Koreik 教授 (ビーレフェルト大学)、テーマは Geschichte im Deutsch-als-Fremdsprache-Unterricht – Spracherwerb und Horizonterweiterung, 参加者は 43 名 (中国からのゲスト 1 名を含む) であった。
 - ・ なお、財務諸表作成日程の都合により、2021 年 3 月に実施した文化ゼミナールと教授法ゼミナールの決算は 2021 年度に行うことになった。

4. ドイツ語教員養成・研修講座の実施

- ・ ドイツ語教育部会、東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2020 年度は 2019 年度秋開講コースの前期分の中の 4 回のワークショップと、後期分の中の 4 回のワークショップが行われた。コロナ禍のため、Zoom によるオンライン開催とした。専用のプラットフォームである Moodle 上では、受講者同士、また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され、受講者・講師双方にとって、ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。
- ・ なお、諸般の事情により決算は 2021 年度に行うことになった。

5. 日本独文学会・DAAD 賞の授与

- ・ 第 18 回日本独文学会・DAAD 賞が下記のように決定した。

日本語研究書部門：

須藤温子：『エリアス・カネッティ——生涯と著作』(月曜社、2019 年)

日本語論文部門：

徳永恭子：「移動の文学——ランスマイアーの『スラバヤへの道』に関して」(『ドイツ文学』158 号)

ドイツ語論文部門：

Isamitsu MURAYAMA: Intermediale Wechselwirkung von Text und Bild zur Stilisierung einer idealen Märchenerzählerin. (Fabula. Zeitschrift für Erzählforschung, Bd. 60)

Soichiro ITODA: Nietzsches Idyllen aus Messina: Zu einer neuen kritischen Lektüre. In: Ralph Häfner u.a. (Hg.): Nietzsches Literaturen. (Berlin: De Gruyter 2019)

なお、表彰式は、2021年6月5日にオンラインで開催する予定。

6. 日本独文学会研究叢書の発行（学会ウェブサイトによる電子出版）

- ・ 2020年度に以下の6号が公開された。

Nr. 138 Gefühlsunordnungen. Heinrich von Kleist und die romantische Ökonomie der Affekte (2020. 6. 6)

Nr. 139 創作システムとしての翻訳 (2020. 6.6)

Nr. 140 統語と意味のインターフェイスをめぐる — カートグラフィの射程 — (2020.6.6)

Nr. 141 天国への階段 オーストリア文学における故郷表象の虚構性 (2020. 10.17)

Nr. 142 誕生, 始まりのディスクール — 変革と転換の文学的表現 — (2020. 10.17)

Nr. 143 中世的身体イメージと遊戯性 — 宮廷文化に内在する逸脱の傾向 (2020. 10.17)

7. アジアゲルマニスト会議 2019 論集の発行

- ・ 2019年8月26日から8月29日にかけて行われたアジアゲルマニスト会議 2019 の各発表に基づく論集 „Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz: Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo.“ が 2021年1月に iudicium 社からオープンアクセスの電子出版の形で刊行された。(刊行費用 966,120 円。アジアゲルマニスト会議開催積立金より執行)。
- ・ 任務完了に伴って実行委員会を解散し、この間の累積剰余金 (584,986 円) をアジアゲルマニスト会議開催積立金に繰り入れた。

8. その他のドイツ語、ドイツ文学及びドイツ語教育の研究及び普及に資する事業

- ・ 若手研究者の研究成果公開のために「日本独文学会岩崎基金」を用いた出版助成を行った。2020年度は、馬場大介氏の「近代日本文学史記述のハイブリッドな一起源：カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触」に出版助成が授与された。(助成額 300,000 円)